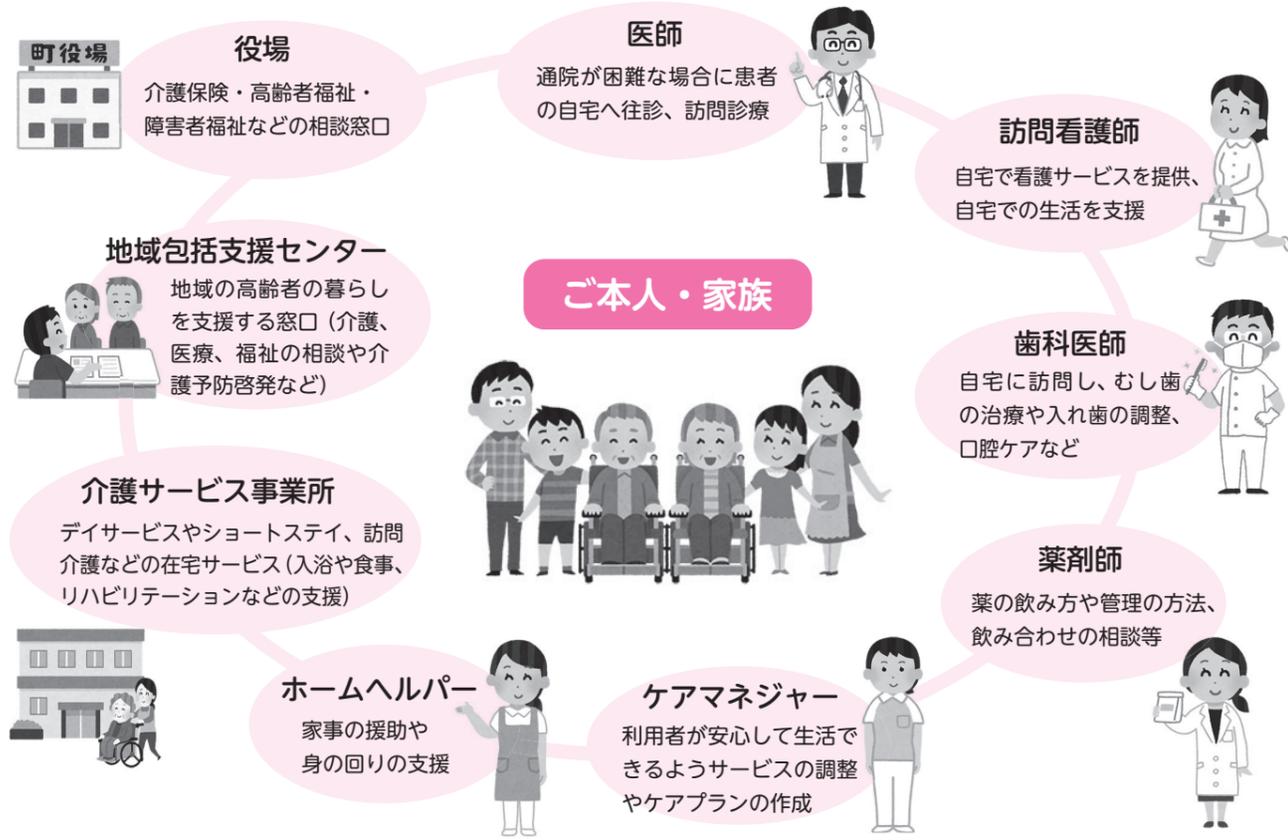


あなたのお家にうかがいます！

人生の最終段階（終末期）を迎えたい場所として、半数近くの方が「自宅」と回答しています。人生の最期まで住み慣れた「自宅」で暮らし続けるために、さまざまな医療・介護専門職が皆さんの生活を支えます。



こんな時、在宅医療があります。

- ☑ 病院に通うことが難しくなった
- ☑ 医療行為が必要な状態で退院をすすめられた
- ☑ 最期を住み慣れた自宅で迎えたい など

病院に通うことが難しくなっても、自宅で必要な検査や治療を受けることができます。

まずはかかりつけ医・かかりつけ歯科医にご相談ください。かかりつけ医がない場合は長寿介護課や地域包括支援センターがご相談に応じます。

尾北医師会では、ホームページで「在宅医療・介護」、「人生会議」をわかりやすくご紹介しています。ぜひご覧ください。また、「人生会議」と「在宅医療・介護」の出前講座を実施しています。町内で活動する10人以上の団体で、出前講座を希望する方は、下記までお問合せください。

リーフレット
届け！私の想い

人生会議電子紙芝居
聞きたい、伝えたい
~人生会議してみませんか~

考えよう！私の未来
~人生会議はじめての一步~

在宅医療・介護電子紙芝居
もしも、あなたの大切な人が倒れたら

尾北医師会
ホームページ
在宅医療・介護、
人生会議のご紹介

電子紙芝居視聴
(YouTube が
開きます)

相談窓口

長寿介護課 ☎ (92) 4118 1階 番窓口
尾北医師会 地域ケア協力センター ☎ (95) 7027



想いを伝えることができる「今」、 私らしい暮らしを続けるために、「人生会議」してみませんか

長寿介護課 ☎(92) 4118 1階 番窓口

年齢を問わず、誰もが命に関わる大きな病気やケガで、突然自分の意思を伝えられなくなる可能性があります。「人生会議」とは、そのような「もしもの時」に備えて、将来の医療やケアの希望、あなたが大切にしてほしいことなどを、家族や親しい友人、かかりつけ医やケアマネジャー等の医療・ケア専門職と一緒に考え、話し合い、記録に残しておくことをいいます。

人生の最期まで「私らしい暮らし」を続けるために、「人生会議」をしてみませんか。

終活とはどう違うの？

終活は「人生の終わりに向けた活動」の略語です。自分が亡くなった後のご葬儀やお墓のこと、相続などについて、あらかじめ整理しておくことをいいます。

人生会議は、あなたがこの先の人生をどのように生きたいか、将来大きな病気や怪我をして、自分の意思を伝えられなくなったときの医療やケアの希望について、周りの大切な人と話し合う（＝会議）ことをいいます。

※医療や介護の専門家は「ACP：アドバンス・ケア・プランニング」（事前の医療やケアに関する計画）と言うことが多いのですが、多くの人になじみのある「人生会議」の愛称を使用して啓発しています。

どんなきっかけで、何を話し合えばいいの？

「会議」といっても、改まった話し合いをする必要はありません。

知人が入院した、家族が皆で集まる行事があった、お誕生日を迎えたなど、顔を合わせてゆっくり話す時間があったときや、自分の将来について考える出来事があったとき、まずはあなた自身の気持ちを伝えることから始めてみましょう。

そして、もしあなたの大切な人が、ご自身の気持ちについて話し始めたら、「縁起でもない」という言葉はいつたん飲み込んで、まずは静かに耳を傾けてみてください。

～やってみよう！人生会議～

- ① あなたの希望を考えましょう
- ② 大切な人と話し合いましょう
- ③ 話し合ったことを書き記しておきましょう

※希望や思いは、時間の経過や健康状態によっても変化していくものです。気持ちの変化があった時は何度でも繰り返し話し合いましょう。

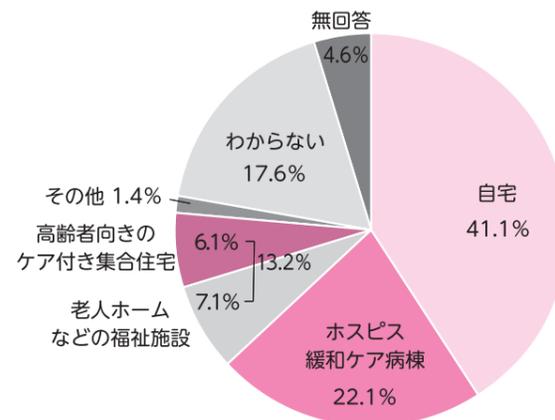
- ・好きなことは何ですか？
- ・大切にしてきたこと、これから大切にしたいことは何ですか？
- ・気がかりなことはありますか？
- ・あなたの価値観などを理解してくれる人は誰ですか？
- ・将来の医療やケアの希望はありますか？ など



扶桑町 エンディングノート

知ってほしい！ あなたの身近に在宅医療

人生の最終段階（終末期）を迎えた時、どこで過ごすことを望みますか？



町が令和4年に実施したアンケートの中で、「病気などで最期を迎えたとしたら、どこで迎えたいか」という設問には「自宅」を希望する人が41.1%と最も多く、ホスピス・緩和ケア病棟を希望する人が22.1%、老人ホームなどの施設を希望する人が13.2%でした。